

第1回よさの地域デザイン会議（野田川地域） を開催しました

10月9日（土）野田川ユースセンター音楽ホールで、「よさの地域デザイン会議（野田川地域）」を開催しました。ファシリテーターは、一般社団法人地域問題研究所 理事長 青山 公三氏（京都府立大学名誉教授）です。

本会議は、年齢、性別、居住地区、肩書などが異なる多様な住民に参加いただき、持続可能なまちづくりにおける公共サービスのあり方、それに必要な公共施設のあり方について、対話により多彩なアイデアや提案を収集する場です。

初めての会議のため、はじめにグループ内で4マス自己紹介により緊張をほぐしたあと、町企画財政課から社会の変化や公共施設の現状について説明し、そのあと公共サービスの「利用圏域」を考えるグループワークを行いました。近くにあった方がよい公共サービス、逆に近くなくてもよい公共サービスを「小学校区域」「旧町区域」「全町域」「近隣市町」「遠隔」に分けて模造紙に整理していきます。整理する際は、なぜそのように思ったのか話し合いながら進められました。

他のグループがどのように整理されているかを覗きに行ったあとは、新たな気付きからさらに話し合いが進められ、時間が足りないほどの盛り上がりとなりました。



参加者のみなさまからの主な意見・感想

- ◇町の財政・人口状況からも、新しいものを作るのは無理。3町合併で3つずつあるものを整理していくべき。
- ◇実際の利用状況がどうか確認すべき。
- ◇現在の公共施設の利用者、利用内容、利用目的や頻度等がわからない（利用状況がわかれば、今後どうしていくのか意見が出せる）。
- ◇保育所統合は、少人数に良さもある。統合時の働き手の確保も必要。
- ◇交通機関に不便さを感じるので、そこを解消できればと思う。
- ◇自然環境や生活の利便性等あまり差がないと思われる近隣（遠方）市町に人が流出してしまうかどうかは「子育て環境」が鍵。
- ◇サービスや施設は、利用対象年齢が小さいほど近くに、年齢が上がるほど遠くで良い（高齢者が近くがよいが）。
- ◇近くのコミュニティを大切にしたい。子育てサービスやスポーツ交流の場は近くにあった方がよい。一方で、小学校は旧町単位の1つずつ集約した方がよい。
- ◇公民館等、地域コミュニティの場は必要。
- ◇庁舎や図書館は全町域、CATVはもっと広いエリアでも良いのでは。逆に、子ども関係は小学校に欲しい。スクールバスのことを思うと、サービスの範囲は柔軟に考えるべき（岩屋の奥の子は遠い）。
- ◇庁舎窓口が分散している今の状態は不便で集約してほしい。
- ◇あまり利用していない図書館など近くになくてもよい施設もある。
- ◇スクールバス（公共交通機関の活用含め）：特に岩屋の児童
- ◇Cafe（サロン）
- ◇駅の活用：イベントスペース、地域のPR、物品販売等、人が集まれる場にする。
- ◇キーワード 高校生の地域活動拠点となるプラットフォーム
- ◇キーワード 与謝野駅を憩いの場に。
- ◇若い人が町外から帰ってこないが、働く場として施設活用できたら町収入も増えて良いのではないか。
- ◇与謝野町は住みにくい、役場に言っても動いてくれない印象がある。
- ◇与謝野町は高速道路が整備され、通過する町となっている。若者の活気がないと、地域の活気も無くなる。観光産業があまり突出していないので、官民が一体となって新しい取り組みをする等、工夫が必要だと思う。まずはこども園や学校を一本化し、教育の基盤づくりと公共施設の状況をもっと周知してほしい。



【感想】

- ◆参加してみて、もっと意見が割れると思ったが、意外と似たような認識だった。世代や家族構成によって課題等は違うと思うので、そういう個別で集まり考える場も必要かなと感じた。
- ◆大人目線で考えてしまっていたけど、高校生の話が出て、若い世代のことも考えるきっかけになった。
- ◆おもしろい話がいっぱい聞いて良かった。
- ◆住民参画が出来る今回の会議は勉強になるのでもっと開催するべき。
- ◆それぞれが問題意識は持っていると思うので、今こそ与謝野町民全員が一丸となって問題解決に取り組むべき時期になっている。
- ◆メンバーの皆さんは周りの町民の方々のことも考え、意見を出されていることに感心した。
- ◆もう少し具体的に現状を把握できないとなかなか発言ができない。
- ◆住民への与謝野町の状況周知が足りない。
- ◆過去に建設された施設も、もっと町民の声を聞いて実施すべきだったのでは。
- ◆財政を考えただけで施設の対応をすると、主には減築か増税が考えられるのでは。
- ◆与謝野町は住民が行政に対して求めるハードルが高い。



【傍聴者ご意見】

- ・企画のおもい通りに、委員のみなさまが若い人、女性が多かった。よかったです。多様な意見、提案が出てきそうな方法であると思った。
- ・住民サービスの低下（ある程度仕方ない）。
- ・何年使うべきか？（耐用年数過ぎた施設）。
- ・長寿命化を図る。
- ・必要度に応じてグループ分け（ランク分け）を行ってはどうか。
- ・地域によって、残す施設とそうでない施設を住民との対話を充分行うべき。
- ・施設をどんな人、団体が使っているのか把握が必要との意見に賛同。

問い合わせ先

よさの地域デザイン会議事務局（与謝野町企画財政課）

電話 0772-43-9015（直通） FAX 0772-46-2851

メール kikakuzaisei@town.yosano.lg.jp